

弓浜干拓地管理協議会事例発表



1 弓浜干拓地の概要



弓浜干拓地

- ・昭和38年度 国営中海土地改良事業により造成開始
- ・平成元年度 営農開始
- ・平成14年度 中海・宍道湖の淡水化中止
- ・平成22年度 米川から取水する灌漑が開始
- ・農地面積：107ha
- ・耕作者数：個人50人、法人3者
- ・主な栽培：白ネギ、ダイコン、サトイモ

2 弓浜干拓地の散水方法

弓浜干拓地は全ての圃場で自動制御式スプリンクラーによる散水を行っている。

- ・米川から取水した水を用水機場ろ過池でろ過し加圧機場調整池へ送水し貯水
- ・調整池の貯水量は158,000m³
- ・加圧ポンプにて7kの圧力をかけて各圃場に送水
- ・散水回数:2回(朝、晩) 散水時間:1回15分
- ・30aの圃場に1日当たり積算雨量3.5mmに相当する水量



ろ過池



調整池



スプリンクラー散水



3 弓浜干拓地管理協議会の基礎的情報

- ・平成29年度結成(現在7年目)
- ・対象農地9,028a、水路11.3km、農道5.1km
- ・構成員94名(令和5年度現在)
- ・役員:代表1名、副代表2名、監査役2名、委員5名
- ・令和2年度より資源向上(長寿命化)活動にも取り組み始める

2021/07/05 08:55

4 活動内容

農地維持活動

年に1回(10月頃)に全体での除草作業を実施。

農地内で吸出し等による陥没が発見されたら適宜補修工事を行っている。

各構成員が各自で農道の泥上げ、水路の浚渫、潮回し水路等の除草剤散布を行っている。大型機械を所有する構成員が広範囲にわたり作業を行うことによって手つかずの水路、農道を出さない管理をしている。

干拓地は、強風が起きやすく、飛んだ砂が水路、農道に溜まりやすい地域。



各構成員の日々の作業が必要不可欠

全体作業



草刈り作業

工事委託



陥没補修

各構成員作業



農道の泥上げ



水路の浚渫



除草剤散布

4 活動内容

資源向上(共同)活動



全体作業にて景観形成の一環としてコスモスの種まきを実施。7月上旬にメイン道路約1.3kmにわたり種をまき、10月上旬に満開になる。

12月に広報誌(活動報告、次年度の活動計画、収支決算報告について)を発行し、構成員に周知。

適宜防風林の剪定を行い、見通しの良い農道を常に維持している。

直営施工として、各圃場に1つずつある電磁弁の修理を行っている。

毎年11月頃に役員による施設点検を行い、施設に異常がないか調べ、次年度の作業、工事計画を立てる。

全体作業



種まき作業

広報誌



各構成員作業



防風林の剪定

直営作業



電磁弁修理

4 活動内容

資源向上(長寿命化)活動

弓浜干拓地は営農開始から30年以上が経過し施設の老朽化による破損が増えてきた。

資源向上(長寿命化)活動によって適宜補修を行っている。

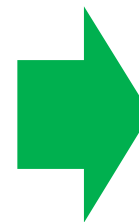
過去に行った工事:舗装補修工事、水路補修工事、スプリンクラー配管補修工事など

弓浜干拓地ではカラスによる農作物への被害が非常に多い。捕獲用の箱罾も経年劣化が見られるので現在、直営施工にて補修中。また、1,492箇所あるスプリンクラーの清掃も構成員によって行われている。

水路補修工事(令和4年度実施)



水路補修工事(令和4年度実施)



直営施工



箱罾補修(途中経過)



スプリンクラー清掃

4 活動内容

役員会・施設点検



□ 役員会

〈内容〉

- ・活動報告(農地維持、資源向上(共同、長寿命化))
- ・収支報告
- ・今後の作業予定
- ・長寿命化工事箇所
- ・草刈り、浚渫必要箇所の選定
- ・その他、新たな問題解決に向けて



□ 施設点検

〈内容〉

- ・農用地の機能診断
- ・水路の機能診断
- ・農道の機能診断
- ・草刈り、浚渫必要箇所の調査

5 まとめ

多面的機能支払交付金事業を始めたことによって、干拓地を適正に管理する為に必要な予算を常に確保しながら活動の計画を立てることが可能となりました。今までは、ポンプの点検や整備に予算の大半を割かれるので、突発的な水路、舗装の破損等、手が回せなかった箇所も多面的機能支払交付金事業により迅速に対応できるようになりました。

今後もこれまでの多面的機能支払交付金事業による活動を続け、干拓地を適正に管理していくとともに、営農組合と連携を図り、遊休農地の解消、優良農地を保全する体制を固めていき、日本有数の綺麗な干拓地を限りなく有効活用できる状態を長期に渡り継続させていきたいと考えています。